資料３－３－２

ヒグマワーキンググループの経過報告・今後の予定

１．令和４年度ヒグマ WG の開催概要

・第１回会議　令和４年（2022 年）８月３日（水）羅臼町コミュニティセンター
　※WG 開催の前日、８月２日（火）午後に現地視察を実施
・第２回会議　令和４年（2022 年）12 月 15 日（水）釧路地方合同庁舎会議室

２．主な議事内容

「第２期知床半島ヒグマ管理計画」の年次計画となる「令和５年度知床半島ヒグマ管理計画アクションプラン（案）」の内容を中心に議論しました。主な意見・指摘事項は以下のとおりです。

■第２期知床半島ヒグマ管理計画の進捗状況
・昨年度に比べて、利用者の問題行動に起因する危険事例は全体的に大きく減少した。地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数も、羅臼町ではゼロとなるなど、関係者の努力によって全体的に減少傾向にあり、良い方向に向かっている。
・ただし、利用者の撮影・観察による危険事例は依然として多く発生しており、自然公園法改正の効果など、今後の推移に注目していく。

■令和５（2023）年度　知床半島ヒグマ管理計画アクションプラン（案）について
・具体的な方策が目標達成に繋がるか否か検証可能な形にしていくべきである。リザルトチェーンのような相関図を作成・活用しつつ、工夫と改善を繰り返しながら、次期アクションプランにつなげていくことが重要である。

■第２期長期モニタリング計画について
・評価項目 F（評価対象は環境圧力・観光圧力）に紐付けられていたモニタリング項目のうち、知床半島ヒグマ管理計画に基づく管理状況全般を評価する内容は、「知床世界自然遺産管理計画に基づく管理ができているか」に該当する評価項目として、評価項目Ｌを新設し、評価することとする。

■DNA による調査の継続について
・ヒグマの管理にあたって DNA データは非常に重要である。環境省、斜里町、羅臼町及び標津町が共同で、令和５年度に必要と想定される費用の確保に向けて調整中。
・DNA による血縁関係の分析の結果、問題個体の約８割の出生地が明らかとなり、国立公園外の生まれが３分の２を占めていた。引き続き、遺産地域の内外での対策が重要である。

３．今後の予定

令和５（2023）年度は２回程度の開催を予定。

以上